

団体名：ハンズハーベスト

代表者名：小山 邦子 設立年月…2008年12月1日

事業規模簿：30万円 ボランティアスタッフ数…7名年間（年間：ボランティア述べ120名）

取り扱い量：80t

施設配布先：36施設（約500人） 活動地域：札幌市・石狩市・千歳市・余市町他

住所…札幌市中央区南24条西15丁目1-2 TEL:011-533-3375

事業概要

教会の困窮者支援活動が母体で、みなずき会として札幌市内で炊き出しを10年以上行っている。2hjとは2008年に接点をもち、フードバンク札幌設立時に活動を始める。

その後、フードバンク札幌が方個性の違いにより解散しても継続的に配送を行い、「ハンズハーベスト」として活動している。

生活困窮者及び障害者施設などの福祉施設へ食品の提供を行う

ポイント

● 炊き出し活動

現在は、札幌市内での生活困窮者及び路上生活者向けに週2回の炊き出し活動も行き、一度に約70名近くが訪れる。

● 日々の定期集荷・配送

定期的な食品集荷：週3回のコストコ集荷+青果仕分けセンター（検品後に出る余剰品）での集荷を週6日行い一日平均100kg～300kgの青果物が出る。

上記と合わせた商品を含めて、不定企業寄贈品の集荷を毎週金曜日にし、倉庫への荷降ろし及び各集荷施設へ積み込みをダルク、マックの利用者さんが全面協力している。

取り組みの経緯

本格的に2hjと取り組む前にみなずき会としての炊き出し活動中にハインツさんの食品を引き取り、配送していただいた経緯がある。その後、第一回（2008年）のフードバンクキャラバンの際にフードバンク札幌の中心メンバーとして活動。代表の小山さんは、障がい者福祉施設に長年勤務され、福祉事情はもちろん多くの福祉関係者との接点をもつ。

その後、フードバンク札幌の活動が縮小されても地道に活動を続けられ現在に至る。

活動方針

- 利用者が利用料を払える能力や稼ぐ能力などが乏しく、小規模になると国からの補助も乏しいので、障害者グループホームを第一優先に寄贈品を配布している。元々、代表者が小規模の障がい者施設で仕事に長く従事していたので、社会福祉法人に比べると運営費が極めて乏しい環境をよく認識をしているためである。
- 地方主要都市ということもあり、個人への支援に対しても力を入れたいので、炊き出し活動を週2回行っており、ビッグイシュー及び滞在型生活困窮者団体やハンズハーベストでの互い連携により、必要に応じて各団体の強みを生かした、「食」・「住」・「職」のサポートをしている。

タイトル、小見出し：MS ゴシック 16 ポイント

文章：MS 明朝 10 ポイント、英数字 century 10 ポイント

活動事例

● 学童保育での食品提供

制度上では 18 時までの保育だが、低賃金のひとり親世帯が多いので、19 時、20 時過ぎまでの保育が必要だが、子どもの夜食までの予算がなく、本来はほとんど何も出せないが、フードバンク食品があることにより夜食が出せる余裕ができた。

提携食品企業

定期企業：コストコ、マルア流通株式会社（野菜の仕分けセンター）

立松食品株式会社（豆腐、油あげ、こんにやくなど）さがみや食品株式会社（生麺、冷凍食品など）

不定期企業（主に数ヶ月に 1 度）：味の素ゼネラルフーズ株式会社（コーヒー、紅茶類）、みちのくかいどう倶楽部（乾麺類、調味料、お惣菜類）

カトルフィーユ（手作りパン）、ママコリエ（手作りケーキ、生卵など）
2hj からは約 20t（2012 年）

成果と課題

- 代表者は、助成金など資金を得ながら規模感を少しずつ拡大し、若い方にも集まっていたきたいが、主要ボランティアメンバーからは現状維持の要望が強く、悩んでいる状況

⇒資金が代表や主要ボランティアメンバーの持ち出しの状態であるため運営がとても不安定

年間約 30 万円程度のガソリン代の持ち出し

- 代表者の求心力により、各施設の方が協力体制を築いている感がし、代表者の年齢を考えるとこの地域にフードバンク活動の資源を残せることが重要

⇒定期的に各施設と他のフードバンク団体（山川さん、岩本さん）・ボランティアさん
とで運営会議を設けるように促す。